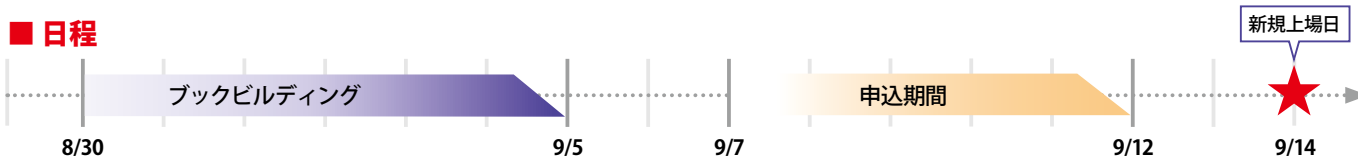


IPO銘柄 串カツ田中 (3547・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3547	100株	公募: 25.00万株 売出: 11.25万株 (OA5.43万株)	3,610円~ 3,900円 (20.0倍)	大和証券

■ 日程



大阪伝統の串カツを関東圏で積極展開

■ 事業内容

大阪の伝統的なB級グルメである串カツの専門店「串カツ田中」を展開する。提供する串カツメニューは常時30品以上で、価格帯は1本100～200円。半数以上が100～120円のメニューとなっており、客単価は2,400円程度と大衆的。串カツの他にかすうどん、牛すじ土手、肉吸い、ちりとり鍋など大阪名物を中心としたサイドメニューも提供する。16年7月末時点の店舗数は120で、うち103店舗を関東地区が占める。大阪府は5店舗のみ。飲食事業の単一業態で、展開する飲食ブランドも「串カツ田中」一本。

■ 特徴

現副社長の田中洋江の父である故田中勇吉から受け継いだ、田中家の味を大阪の西成から東京へ持ってきた。「ソースの二度づけ禁止」など、大阪伝統の味、大阪の食文化を提供している。串カツのレシピは社外秘で、串カツの核となるソース、揚げ油、衣は仕入れ先との間で同じ製品を他社に卸さない契約をした上で独自の材料を使用している。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年11月期の非連結経常利益は前期比40.4%増の3億7,500万円を予想する。目標として全国1,000店舗を掲げた急速な店舗拡大で一気に業績を拡大させている。駅前やロードサイドなど様々なタイプの店舗を展開でき、今後はフランチャイズの拡大を進めていく考え。

■ 定性分析

足元で急速に店舗網を拡大させ、業績成長している外食企業。外食株はIPOで人気の高いセクターではない。ただ、同社は目論見書に株主優待制度(11月末100株保有で3,000円相当の優待券進呈)を記載するなど、経営陣の株価意識の高さがうかがえる。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は16億円程度。新規上場案件としてはやや荷もたれ感の意識される規模となっている。ただ、ベンチャーキャピタル保有株はなく、公開株式以外の株券は市場に流出しづらい構造となっている。

(小泉健太)

■ 類似企業

串カツ田中(3547・マザーズ)	予想PER20.0倍 (仮条件上限)
鳥貴族 (3193・東証1部)	予想PER31.8倍
ヨシックス (3221・東証2部)	予想PER17.7倍

■ 引受証券

大和証券、SBI証券、みずほ証券、いちよし証券、SMBCフレンド証券、SMBC日興証券、丸三証券、マネックス証券、岩井コスモ証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年11月期(実績)	1,360	61.8	176	▲ 1.2	120	14.3	258.7	0.0
15年11月期(実績)	2,510	84.5	267	51.8	183	52.6	153.3	0.0
16年11月期(会社予想)	4,058	61.6	375	40.4	246	33.8	195.0	0.0

※ 15年10月(1株→400株)、および16年7月(1株→5株)に株式分割を実施。
14年11月期、15年11月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年11月期	600	1,413	317	20	264.8	22.5	48.7
15年11月期	240,000	2,034	501	20	418.1	24.7	44.9

※ 14年11月期および15年11月期のBPSは遡及修正

大株主上位 (上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 貫 啓二	580,000	45.77
2 ノート	500,000	39.46
3 田中 洋江	72,000	5.68
4 貫 花音	60,000	4.74
5 近藤 昭人	12,000	0.95
5 坂本 壽男	12,000	0.95
5 大須賀 伸博	12,000	0.95
5 谷川 佑隆	12,000	0.95
9 峯 卓也	1,200	0.09
9 織田 辰矢	1,200	0.09
9 貫 竜一	1,200	0.09

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	貫 啓二
取締役副社長 企画部長	田中 洋江
取締役 店舗開発部長	近藤 昭人
取締役 管理部長	坂本 壽男
取締役 営業部長	大須賀 伸博
取締役	赤羽根 靖隆
監査役(常勤)	西川 勝久
監査役	深見 浩一
監査役	佐藤 信之

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。